“相生橋ならまた逢える”

# 86　相　生　橋

あいおいばし

広島市の中心部を流れる旧太田川は、相生橋をくぐると50mばかりで本川と元安川に分流する。この二つの川に挟まれて、中ノ島のように見える緑の一帯が平和記念公園である。相生橋の中央部から平和記念公園へ連絡橋が枝橋の形で付いているので、橋の全体形は水面の上でT字形を描いている。「広島百橋」といわれるが、数多い広島の橋の中でも変わった形の橋である。

この橋の創架を辿ると、明治11年（1878）に出来た木橋までさかのぼる。初代の相生橋は現在より５～60m下流にあって、平和記念公園の鼻の部分を介した形で、一対の橋が東西の交通を通していた。「相生の松」というように、相生は「相老い」に通じる。二つの橋の長命を願っての命名であった。

下って昭和７年（1932）に、広島で初めての軌道併用の鋼道路橋が現在の位置に完成した。さらに昭和11年に、この鋼橋の真ん中から直角に分岐する形で、今の広島記念公園の鼻へ向けて枝橋が出来た。これで新旧合わせてH形の橋が出来たわけであるが、明治時代からの木製の旧相生橋は間もなく撤去された。Hから縦棒を一本外すとT、T字形の基本形はここに出来上がった。

昭和20年８月６日、アメリカの原爆搭載機B29「エノラゲイ」は、空からも目立つT字形の相生橋に投下の照準を合わせたという。爆心は水平距離で相生橋から300m、高度は600mであった。橋床のコンクリート床版は一度吹き上げられて、原位置から40cmから１mほどずれて橋上に落下して大破、鉄筋コンクリートの高欄はすべて河中に飛散し、鋼桁の一部は50mmほど歪みを生じた。

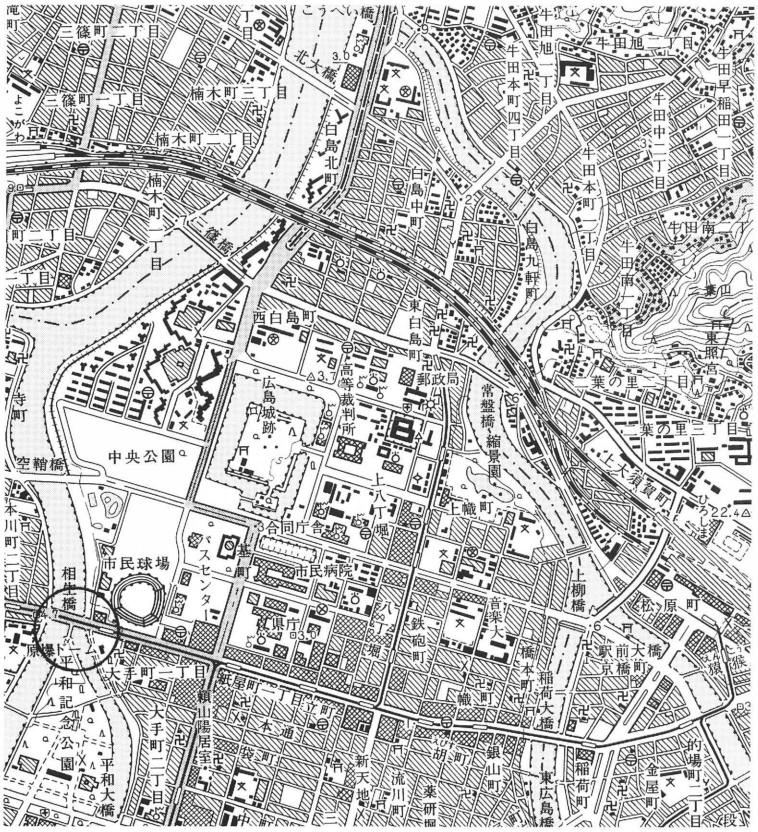
戦後の詳細調査の結果、床版と高欄は造り直しが必要だが、鋼桁は損傷部を修理すればなお当分の間は使用可能と判定され、昭和24年に再建工事を終えた。相生橋の本体である鋼桁部分は健気にも生き残ったのである。

一瞬のうちに廃墟と化した広島市も、その後の戦災復興事業や高度成長の中で生き返り、昭和40年代にはこれが被爆都市かと思われるほどに復興し、また発展した。一方、相生橋の交通量も格段に増え、耐力だけでなく幅員不足の問題がクローズアップしてきた。

現在架かっている相生橋は、昭和52年から58年にかけての段階的工事で建設された新橋である。この三代目の橋の本橋部分は、幅員40mと広島随一の広さを持つが、T字形の基本形は先代を踏襲している。相生橋は原爆ドームや平和記念公園とともに、広島市の象徴のひとつとして、末永く生き続けることになるであろう。〔NT〕

**竣工年月**：昭和58年（1983）
**所在地**：広島県広島市中区
**河川名**：旧太田川
**橋長・幅員**：123.35m×40.00m（車道２×11m＋路面電車１×６m＋歩道２×６m）（本橋部分）
**径間数・支間長**：１×26.95m＋１×28.65m＋１×33.65m＋１×32.60m（本橋部分）
**形　式**：２径間連続上路プレートガーダー（２連）
**備　考**：一代目は明治11年、二代目は昭和７年開通。現橋は三代目

〈写真提供・広島市〉



(1:25,000　広島)

橋のたもとに置いてある旧相生橋の親柱
〈1983年11月15日，撮影・田島二郎〉